

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070701711
法人名	株式会社 深田商店
事業所名	八幡西ケアセンター和が家
所在地	福岡県北九州市八幡西区御開3-9-53
自己評価作成日	平成27年10月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16 TEL 092-589-5680 HP:http://www.r2s.co.jp		
訪問調査日	平成27年10月20日	評価結果確定日	平成27年12月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の毎日が日々、楽しく、安心して暮らすことができるように、利用者様・職員が共にコミュニケーションを深め、要望やニーズに合わせて、季節行事やレクリエーションを企画、実施及び日常生活援助方法の見直し、改善を行なっています。特に身体的・精神的に活動性が高まるような生活スケジュールを考え、安全に配慮しながら、日常生活に活気が満ち溢れるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「八幡西家センター和が家」は本城陸上競技場周辺の閑静な住宅地にある、デイサービス、ケアプランセンターと併設の複合型2ユニットグループホームである。法人は当事業所以外に小倉にも同形態の施設を運営しており、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられるようにとの思いで、地域に密着したサービスの提供を目指している。地元とも友好的な関係を築いており、自治会の運動会や文化祭などは入居者が参加しやすいようにとの配慮もいただいている。近年は情報発信にも取り組み、街づくり会議の福祉部会を担当し、法人での介護勉強会の開催にもつながった。家族会も新たに組織して、今年は敬老会と一緒に企画し、皆に喜ばれた。看取りまで行う支援と、健康管理にも目を配り、開設から入居される方が百歳を迎えるまでにもなっている。今後も益々地域での存在感の発揮が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果						
自己	外部	項目	自己評価(もも)	自己評価(ゆり)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念が記載したボードをフロアに掲げ、毎朝、ミーティング時に唱和しています。	運営理念を掲げ、GH内の玄関、フロアに掲示し、毎朝のミーティングや部署カンファレンス時に唱和することで全職員に意識付けを行っている。	創業時の職員で作られた理念が玄関と各ユニットのフロアに掲示され、毎日のカンファレンスでも唱和している。みんなで話し合っテユニットごとに月の目標も立てており、全体の事業理念とユニットごとの目標理念に繰り返し触れることで職員も馴染みを持っている。	開設時から同じ理念を継続して使っており、今後の継続も含めて一度現在のメンバーで話し合い、振り返りの機会を持つてはどうだろうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域運動会の参加や地域ボランティアの受け入れ、自治区会長や民生委員の参加した運営推進会議の開催により日常的に交流しています。	地域行事に対し、事前準備から職員も参加し、地域住民と共に行事の実施に対し協力し、行事に利用者も参加させてもらっている	年1回ずつの地域の運動会と文化祭が大きなイベントとしてあり、主に見物を入居者とともに楽しんでいる。行事案内は自治会長が持ってきてくれる。今年初めて地域の自治区会と共同で、併設のデイサービスをつかって一般向けの介護教室を行い、盛況だった。毎年の自治総会にも参加しており、近隣の特養とは行事や研修会で相互協力している。	参加行事の幅を広げ、入居者とともにグラウンドゴルフなどの取り組みが実現されることにも期待したい。また、認知症に関わる情報発信の取り組みとして、サポーター養成やキャラバンメイト活動なども検討されてはどうだろうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々と認知症利用者との交流機会を日々の近隣の散歩や地域行事への参加により行い、認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の診療所や福祉事務所にパンフレットを置かせてもらい、相談窓口を地域に開放している。また、利用者と共に地域行事に参加し、地域の人々と共に過ごす時間を増やすし、理解や支援方法を身近に感じて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、ご家族・自治区会長・民生委員・近隣施設職員(知見者)、地域包括支援センター職員(北九州市職員)が参加し、忌憚のない意見交換を行っている。会議内容は、部署ミーティングで職員に伝達され、会議議事録は、閲覧できるようになっている	運営推進会議には、ご家族・自治区会長・民生委員・近隣施設職員(知見者)、地域包括支援センター職員(北九州市職員)が参加し、活発な意見交換を行っている。会議内容は、部署ミーティングで職員に伝達され、会議議事録は、閲覧できるようになっている	運営推進会議の参加者とも相互に馴染みができて、会議が交流の場ともなっている。近くの特養の職員にも参加してもらい、家族には全員に案内して半数近くが参加される。行事報告やヒヤリハット報告を行い、参加者一人一人から意見を頂いている。議事録は玄関において閲覧公開しており、毎年敬老会の際は同日開催している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに市町村担当者(地域包括支援センター職員)が参加しており、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に、地域包括支援センター職員(北九州市職員)が参加しており、事業所の実情やケアサービスの取り組みについて、忌憚のない意見を出していただいている	区が主催する事業者連絡会には併設の居宅から参加しており、相談や質問や空き情報などがある際は地域包括に連絡している。区の窓口にも事業所のパンフレットを配置させてもらっている。	行政との交流機会が少ないので、事業所からの案内や、運営推進会議の議事報告などで、訪問するきっかけを作られてはどうだろうか。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束となる具体的な行為を部署ミーティングで確認し、事業所の介護サービスが身体拘束に該当していないかの確認と、身体拘束を実施している際、実施状況と継続の有無を議論しています。	毎月の部署ミーティングで身体拘束について話し合い、現在のサービスにおいて、身体拘束に該当するものはないか、身体拘束が発生している場合は、継続の必要性があるかの確認を行っている。玄関の施錠については、外部からの不審者の進入などの安全性の問題があって、継続している	玄関は職員管理の自動ドアで、建物内のエレベーターは自由に使用できる。外出要望のある方には見守りや付き添いで対応する。以前は車いすベルトの使用があったが、今はなく、同意書の取り交わし、経過報告、見直しも行った。年1回程度の内部研修のほか、ミーティングでも振り返り、日々のケアにも注意を払っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待となる具体的な行為を部署ミーティングで確認し、事業所の介護サービスが高齢者虐待に該当していないかの確認を行っている	毎日の申し送り時や部署ミーティングにおいて、現状の言葉遣い、接遇方法などのサービスにおいて、該当することが確認を行い、防止に努めている		

福岡県 八幡西ケアセンター和が家

自己	外部	項目	自己評価(もも)	自己評価(ゆり)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に利用者において権利擁護を活用していたため、日常生活自立支援事業や成年後見制度について周知できている。玄関にパンフレットを設置しており、その必要性を話し合い、活用できるように支援している。	以前にご利用していた入居者がおられたため、権利擁護に関する制度理解と活用は周知している。また、玄関横にパンフレットを置き、ご家族への周知を行い、活用できるように支援している。	以前は成年後見制度を使った方がいたが、今はおらず、活用時は事業所からの支援によって、外部の後見人が選定された。契約時に簡単な制度説明を行い、内部研修は年に1回、外部研修の参加は直近ではなかった。必要時は関係機関と協力して対応し、職員も最低限の情報を理解している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、変更時に、重要事項説明書を用いて、書面にて説明、確認を行い、理解・納得を図っている。	契約、変更時に、重要事項説明書を用いて、書面にて説明、確認を行い、理解・納得を図っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口や地域運営推進会議により、利用者や家族等が意見、要望を伝えられるようにしている。また、フロア入り口に意見箱を設置し、意見や要望を述べやすい環境づくりを行い、それらを運営に反映させている。	苦情相談窓口や地域運営推進会議により、利用者や家族等が意見、要望を伝えられるようにしている。また、フロア入り口に意見箱を設置し、意見や要望を述べやすい環境づくりを行い、それらを運営に反映させている。	個別のお便りを担当職員が作成し、家族の運営推進会議参加も多く、面会は少ない方でも3か月に1回はされている。今年から家族会も企画し、敬老会の話し合いを設け、結果、会も盛況になった。意見から食事に関しての改善も行い、外部評価でのアンケートの回収率も高く好意的な意見が多かった。	既に発行しているお便りを活用して、新入職のスタッフ紹介を行ってはどうか。また、意見箱が活用されていないので、意見用紙の事前配布や、設置場所の検討、活用周知などで生かされていくことにも期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の部署ミーティングにおいて、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。また毎朝の申し送りや申し送りノートを活用している。	毎月の部署ミーティングや日々のミーティングを通じて、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。また、朝の申し送りや日々申し送りノートを活用している。	毎月のミーティングにはパート職員を含め、原則全員が参加し、業務伝達、月の目標管理、情報共有をしている。入居者の変化に合わせたケアや、リハビリ用の道具の購入や、食事の提案など積極的な意見が出されている。ホーム長も現場にいるため、日頃も意見を伝えやすく、風通しも良い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1度、自己評価を行い、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、賞与算定に反映させている。また、代表者との面談は随時設けられ、職員が直接、意見を述べ、向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備が行えるようになっている	半年に1度、自己評価を行い、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、賞与算定に反映させている。また、代表者との面談は随時設けられ、職員が直接、意見を述べ、向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備が行えるようになっている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用に当たっては、性別や年齢等の制限を設けず、幅広く行っている。採用後は、研修期間を設け、まず業務に慣れることを優先し、研修期間でその職員の個性を把握することで、職員自身の能力を発揮し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用に当たっては、性別や年齢等の制限を設けず、幅広く行っている。採用後は、研修期間を設け、まず業務に慣れることを優先し、研修期間でその個性を把握することで、自身の能力を発揮し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	男女で20～50歳代の職員がおり、基本は65歳定年だが、定年延長制度も持たれ、無資格者も採用し、入社後の資格取得で支援している。ユニット間の異動も行って全体を把握できるようにし、職員はそれぞれレクや体操などで特技や知識、経験を活かしている。係や役割分担も年替わりで行い、責任をもって業務に取り組んでいる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入職時に、「和が家職員心得」にて、職員に対し、人権教育・啓発活動を説明。研修期間においても、接遇方法の指導を通じて、人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	入職時に、「和が家職員心得」にて、職員に対し、人権教育・啓発活動を説明。研修期間においても、接遇方法の指導を通じて、人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	内部研修によって人権学習を行い、直近では身体拘束の見直しの中で、高齢者の人権について学習した。外部研修参加の際は伝達を行うが、直近では研修の参加がなかった。	一般的な人権学習のために、関連団体を使った資料の貸し出しや、講師派遣などを検討されはどうか。また、「和が家職員心得」を活用した研修などがなされることにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価(もも)	自己評価(ゆり)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	半年に1度の自己評価にて管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、北九州市社会福祉研修所主催の研修参加及び参加者主催の報告会、部署ミーティングにおける認知症ケア研修や介護実践研修によりトレーニングをすすめている	半年に1度の自己評価にて管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、北九州市社会福祉研修所主催の研修や部署ミーティングにおける認知症ケア研修や介護実践研修によりトレーニングをすすめている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の他事業所の行事にボランティアとして参加するなど職員間の交流する機会を作り、連携の中で、情報交換・相互訪問等の活動を通じてサービスの質の向上を図っている。	近隣の他事業所の行事にボランティアとして参加するなど職員間の交流する機会を作り、連携の中で、情報交換・相互訪問等の活動を通じてサービスの質の向上を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の今までの生活をなるべく維持できるように、入所前に在宅での生活状況や要望や不安を傾聴し、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご自宅に訪問し、不安や要望などを傾聴し、入居後の暮らしの説明を行うことで本人の安心を確保するための関係づくりに努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事業所見学を行い、ご家族の質問や要望を確認し、納得、安心して入居していただくことにより関係づくりに努めている	相談時にご家族に施設見学を行っていたり、介護サービス内容や行事の説明を行い、ご家族の不安や要望を傾聴しながら、コミュニケーションをとっている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでの生活の様子や介護方法を説明し、当サービスを利用することで本人・家族等を支援できるかを見極め、必要に応じて、併設の他サービス事業への促しを行っている	介護相談時に、ご本人様やご家族の不安や要望に対応できるサービスが他にないか考え、必要に応じて併設の居宅介護支援事業所のケアマネージャーと連携をとって対応している		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の生活暦や身体能力、認知度を把握し、ともに生活を行う中での役割や支援を考え、理解し協力し合える関係作りを努めています。	ご本人様の残存能力を活用しながら、洗濯・掃除・配膳などの生活活動をともにを行い、暮らしを共にする者同士の関係を築いている		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族を本人様を支援する仲間として、日々の生活状況の報告・相談・連絡を行うとともに、ともに参加できる行事の企画や参加の促しを行うことで協力して支えていけるように支援しています。	ご本人様の日常生活の様子を面会時、電話連絡時・ご請求書などの書類配布時のお手紙にて、報告し、本人と家族の絆を大切に、季節行事への参加や面会がしやすいように援助している。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の外泊・外出支援、利用者のお知り合いなどの関係者が訪問しやすい環境づくりを行い、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間や外出・外泊の制限を設けず、今までのなじみの人や場所との関係が途切れないようにしている	近隣の知人が家族と一緒に訪問してくれたり、面会時間に制限を設けないことで受け入れ態勢を柔軟にして、来てもらいやすくしている。家族との外泊、一時帰宅などもある。買い物好きな方を近所のショッピングモールに連れて行ったり、家族と共に墓参りに行ったりとそれぞれに合わせた支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価(もも)	自己評価(ゆり)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の意思疎通や共同作業が行えるように職員が仲介役となり、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	午前・午後に利用者同士がかかわりを持てるレクリエーションや体操をフロアで実施し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去し、サービス利用(契約)が終了しても、医療機関や入所施設との連携を必要に応じて行い、本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去し、サービス利用(契約)が終了しても、医療機関や入所施設との連携を必要に応じて行い、本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	部署ミーティングや日ごろの申し送りの中で、利用者状況の把握とともに、本人様の希望、意向の把握を介護職員間で話し合い、接遇方法を修正しています。	入所時に本人・ご家族より生活歴や今までの生い立ちを聞き取り、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	入居当初は1週間の経過をADL状況シートで確認し、全職員が目を通して。アセスメントは担当職員が受け持ってセンター方式の一部を活用し、家族からの情報提供も受けている。1,2年程度で定期的な見直しも行き、意思疎通の難しい方には、日頃の様子を現場の職員からも聞き取って把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様・ご家族さまから情報を提供していただき、情報シートとして、全職員が把握できるようにしている	入所時にご本人・ご家族、サービス提供事業所・担当ケアマネージャーから、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等を聞き取り、把握に努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活日誌や健康日誌の記録にて、一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。個別対応表を作成し毎月のカンファレンスで検討し現状の把握に努めている。	毎月のミーティングで個別対応表を作成・更新を行い、多方面から、一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族・本人様の意向を重視し、主治医・看護職員などの専門職の意見を反映しながら、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時に、担当者会議を開催し、主治医、本人、家族、ケアマネージャー・介護・看護職員など必要な関係者から情報収集を行い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランはカンファレンスで話し合った情報をもとにして、各ユニットの計画作成担当者が作成している。職員は入居者ごとの担当制で、アセスメントと、毎月のモニタリングを行う。プランの見直しは随時と一年の定期で行い、その際に担当者会議を開き、家族や医師、看護師などからは日頃の関わりから情報を引き出している。プランの実施状況は日報の中で管理している。	介護度の見直しの際などの節目で、担当者会議に家族にも参加してもらってはどうか。また、医師や、看護師から聞いた情報も担当者会議録に残すことで、意見照会につながることに期待したい。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活日誌・健康日誌・経過記録・申し送り表などの個別記録を考慮しながら、職員間で情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしは生活日誌、健康状態や身体状況については健康日誌、認知面・医療面で継続して経過確認が必要な場合は経過記録など個別記録を作成し、申し送りや部署ミーティングで職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		

福岡県 八幡西ケアセンター和が家

自己	外部	項目	自己評価(もも)	自己評価(ゆり)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設している居宅介護支援事業所や通所介護事業所との連携により本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設している居宅介護支援事業所や通所介護事業所との連携により本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市民センターや民生委員、自治区会より地域資源の情報をいただき、運動会や文化祭などの地域行事の参加や地域の福祉ボランティア(傾聴)の協力を頂き、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市民センターや民生委員、自治区会より地域資源の情報をいただき、運動会や文化祭などの地域行事の参加や地域の福祉ボランティア(傾聴)の協力を頂き、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、治療箇所にあわせて、本人及び家族等の希望するかかりつけ医と事業所が連携し、医師からの指示に従いながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、治療箇所にあわせて、本人及び家族等の希望するかかりつけ医と事業所が連携し、医師からの指示に従いながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設のデイサービスと兼任する看護師が毎週健康管理を行っている。かかりつけ医は希望があれば外部の病院とも可能で、通院も基本的には事業所から支援している。提携医の往診、歯科医による口腔ケア、訪問マッサージも希望すれば利用できる。入居者ごとの医療記録も管理し、面会時などに家族に報告している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が配置されており、介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを朝礼や申し送り時に伝達・相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師が配置されており、個々の利用者の健康面や精神面の変化を伝えて相談しやすい環境にあるため、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近隣救急医療機関と当事業所主治医との連携が築けており、入退院時には、救急医療機関医師より病状や治療方法などの説明が家族同様であり、主治医へも情報提供が行われる。また、入院中においても、病院関係者との間で利用者情報の共有が行われる	近隣救急医療機関と当事業所主治医との連携が築けており、入退院時には、救急医療機関医師より病状や治療方法などの説明が家族同様であり、主治医へも情報提供が行われる。また、入院中においても、病院関係者との間で利用者情報の共有が行われる		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、当事業所における看取りの方針を説明し、ご本人・ご家族に対し、早い段階から話し合いを行う。また、看取りが必要になった場合においては、主治医・本人・家族・看護師・管理者との間で再度、看取り時の対応方法を確認している。また随時、近隣事業所において発生している看取りについての取り組み方法を学し、地域の関係者とともに、支援に取り組んでいる	契約時に、当事業所における看取りの方針を説明し、ご本人・ご家族に対し、早い段階から話し合いを行う。また、看取りが必要になった場合においては、主治医・本人・家族・看護師・管理者との間で再度、看取り時の対応方法を確認している。また随時、近隣事業所において発生している看取りについての取り組み方法を学し、地域の関係者とともに、支援に取り組んでいる	出来る限り看取りまで行う方針で、契約時には方針の説明を行い、重篤化の際に改めて医師の立会いのもと、説明、同意を得ている。これまでに5名ほどの方を看取った経験もあり、看取りに関しての内部研修も毎年行っている。提携医も24時間対応しており、緊急時の対応体制もとられている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の避難訓練時にAEDを用いた急変時や事故時の応急手当や初期対応訓練を救急隊により実施し、実践力を身に付けている。また、感染症予防対策など時期に合わせた対応方法も看護職より指導があり、身に付けている	年2回の避難訓練時にAEDを用いた急変時や事故時の応急手当や初期対応訓練を救急隊により実施し、実践力を身に付けている。また、感染症予防対策など時期に合わせた対応方法も看護職より指導があり、身に付けている		

自己	外部	項目	自己評価(もも)	自己評価(ゆり)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の避難場所を災害時ハザードマップにて確認している。また、年2回の避難訓練のうち、1回は夜間を想定したものになっており、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけるとともに、自治区会・民生委員とも災害時の協定を結んでおり、地域との協力体制を築いている	地域の避難場所を災害時ハザードマップにて確認している。また、年2回の避難訓練のうち、1回は夜間を想定したものになっており、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけるとともに、自治区会・民生委員とも災害時の協定を結んでおり、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練の内、1回は併設事業所も含めて、全館合同、もう1回は単独で夜間想定訓練を行い、消防署は毎回立ち会ってもらっている。上層階も避難経路が2か所あり、備蓄物も確保されている。訓練は新人を中心に行うことで、避難体制を共有している。	地域との協力体制を作っていくために、事業所の行う訓練の案内をしたり、地域防災活動の情報収集、参加を検討されてはどうだろうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	新人研修時に接遇方法の指導の中で身に付け、継続的に部署ミーティングで接遇方法の見直しや確認の中で、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応の継続できているかどうか検証している	入社時研修で接遇において一人ひとりの尊重とプライバシーの確保を行うことを指導し、毎月の部署ミーティングにおいて、接遇方法において一人ひとりの尊重とプライバシーの確保が行えているか確認している	新人研修以外でも言葉遣いやケアなどを日頃から見直したり、毎月のカンファレンスの中で振り返りを行って、自分のケアを確認している。接遇に関する内部研修は年1回程度実施している。個人情報の写真利用は今のところ内部だけに留めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、その日の状態や状況に合わせた本人様の意向を傾聴し、意志をくみ取ることで、本人の希望されることが、日々の生活のなかで表現できるように支援し自己決定により選択でき機会を増やしています。	日常生活において、利用者への声かけや話題提供を行い、本人が思いや希望を表現しやすい環境づくりを行い、自己決定できるように働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者の体調や精神面の起伏を考慮し、朝・夕の職員間の申し送りの中で業務ペースの見直しを行っている。	4交代のシフト業務において、職員同士の申し送りが朝・夕と行われるため、その際に、利用者状況を申し送り、都度、業務ペースを利用者一人ひとりにあうように修正を行い、希望に沿った支援を行っている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活空間を維持することで、毎日、自分に合った身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。また、外出や行事を増やし、身だしなみやおしゃれができる機会も増やしている	本人の希望や趣味を考慮して、一緒に考え、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が栄養面や食事摂取力を考慮した献立作成を行い、食事提供を行っている。また、食事メニューをお伝えする際に、季節感が味わえるような話題提供を行い、食事が楽しみなようにしている。食器拭きなど利用者様が出来る部分を職員と一緒に、食事前に、口腔体操を取り入れ、食事の意識付けや誤嚥予防に役立てています。	一緒に調理・配膳・片付けを行う機会が持てるように声かけを行い、利用者のできるものややっていただくように支援している。また、食事メニューをお伝えする際に、季節感が味わえるような話題提供を行い、食事が楽しみなようにしている。食事前には、口腔体操を取り入れ、食事への意識付けや誤嚥予防に役立てている。	毎月1回は「和が家の日」として、手作りおやつを提供している。通常は施設1階にある厨房で、管理栄養士の管理による食事の配食が行われている。配下膳やお皿ふきなど入居者も出来ることは手伝っている。食事は職員も同じものを一緒にとっており、和やかに会話なども楽しまれていた。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事摂取量を記録し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援を行い、工夫していくことで一人ひとりの摂取量を確保している。	食事・水分量を毎日確認し、看護職・栄養士と話し合い、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		

福岡県 八幡西ケアセンター和が家

自己	外部	項目	自己評価(もも)	自己評価(ゆり)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、利用者ごとに口腔内の状態に合わせた支援を行っています	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、利用者自身で口腔ケアが行えるように歯ブラシやうがいコップなどを準備し、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーに配慮し、排泄リズムや排泄習慣に合わせた声かけにより排泄の自立支援を行っています。	排泄チェック表を作成し、本人の排泄パターンを把握し、パターンに合わせた誘導を行い、プライバシーを考慮しながら、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全入居者に対し、一人ずつ一週間分の排泄チェック表を管理している。自立した方は自分でトイレに行くが後から聞き取っている。便秘が続く方にも医師の指示のもと、対応を図っている。状態が落ちていく中でもできる限り現状維持に努めトイレ排泄をしてもらい、家族とも対応を相談している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行運動などの活動性の確保と腹部マッサージ、栄養士による繊維質の高い野菜や乳製品を食事に取り入れることで便秘の予防に取り組んでいます。	水分補給や繊維質の多い食材、補助食品を使用した献立、腸内運動を促すマッサージにて、便秘予防、排泄支援を行っている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の利用者の体調を確認し、入浴時は利用者とのコミュニケーションの場として、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように支援しています。また重度の方には、週1回機械浴の対応を行っています。	入浴時間は、夜間が職員が1ユニット1名となるため、夜間以外で実施している。入浴においては、利用者1名に対して職員1名で対応し、体調や意志を考慮している。また、コミュニケーションの場として考え、入浴を楽しめる声かけや話題提供を行っている。また重度の方には週1回の機械浴の対応を行っている。	ユニット共通で、家庭用のユニットバスの造りである。基本的には週2、3回、14～16時の対応で、順番は特に希望されていない。必要な方には併設のデイサービスにある、機械浴の使用も可能である。拒まれた際も時間や担当を変えて無理には行わず、清拭などを行うこともある。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調を確認し、精神的に落ち着いて安眠できるように、就寝前は穏やかな声かけや衣類・寝具などを整えて、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は一人ひとりの生活習慣に合わせてばらばらです。日中に活動量が増えるように、レクリエーションや体操を実施したり、安心して気持ちよく眠れるように悩みや不安を傾聴したりして、支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋や受診記録を確認し、薬の効果や服薬方法、ご利用者の病状を把握し、病状と服薬の関連を理解して服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。特に服薬変更時には、状態観察・経過記録を行い、服薬と症状の関係性に注意している。	職員全員が処方された薬の内容を把握し、確実に服薬できるようにしている。また、週1回の主治医の往診後に、薬や治療方法の変更があれば、職員間で周知できるようにしている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者に合わせてレクリエーションの提供または家事訓練などの生活リハビリを職員とともに、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援しています	生活活動の中でできることを見極め、できることが継続できるように日々の役割として習慣化し、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、支援している。また、季節に合わせた行事を企画し、楽しみごと、気分転換等の支援をしている		

福岡県 八幡西ケアセンター和が家

自己	外部	項目	自己評価(もも)	自己評価(ゆり)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調を確認しながら、一人ひとりのその日の希望にそって散歩やドライブなど季節を感じられる場所や思い出の場所へ外出しています。また、外出場所においては下見をし、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるようにしています。	季節に合わせた外出支援を行っている。花見の名所へのお出かけ、土用の丑の日や月見などの季節行事に合わせた食事、お祭りや運動会などの見学を地域や家族の協力を得ながら実施しています	日常的にも気候のいい時は、近隣を散歩したり、公園に行ったり、車でドライブに行くような介助を行っている。外出レクとしては季節ごとの花見をしたり、地域行事として運動会を見物にいったりもしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者一人ひとりの現金を事業所で管理し、ドライブや散歩など外出し、買い物が行える場合は、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者一人ひとりの現金を事業所で管理し、ドライブや散歩など外出し、買い物が行える場合は、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望に合わせて電話や手紙のやり取りができるように支援しています。	遠方にご家族がおられ、面会が頻繁には難しい場合は、本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者とともに作成した壁画を季節ごとに変えて、季節感のある、温かく、家庭的な雰囲気作りを工夫しています。また、外出や行事の写真や飾ることで、思い出話視や話題提供が出来るように工夫し、居心地よく過ごせるようにしている。	フロアの壁飾りを季節ごとに利用者とともに作成し、季節感のあるフロア作りを行っている。室温温度計を確認しながら温度・湿度の調整、カーテンや照明により明るさを調節し、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングと居室のエリアは廊下で隔たれており、居室では静かに過ごすことができる。廊下には風景写真が飾られ、周囲の環境も開かれているため陽光もよく射し込み明るい。ダイニングテーブルで家事を手伝ったり、各所に置かれたソファで休んだりと思い思いの時間を過ごしている。トイレも3か所あり居室から近いところを利用できる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の場でも自分の居場所や利用者同士の関係性が確保できるようにソファや椅子の配置や向きを工夫しています	ソファの配置や食卓の位置を利用者の歩行状態や精神面に合わせて変化させ、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族さまの写真や思い出の品を飾ったり、使い慣れた家具やベット、寝具などの持込を行って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、使い慣れたものや好みの持込ができるように施設基準よりも広めになっており、家具・寝具・衣類を持ってきていただき、本人様と相談して居心地よく過ごせるような工夫をして配置している	クローゼットのみ、事業所によって準備されており、ベッドは介護度に応じて、自分で準備する場合もあれば、事業所から提供する場合もある。備え付けられたカウンターは机代わりに使ったり、棚として使うことも出来る。使い慣れたソファや鏡台、テレビなども持ち込み自由でそれぞれの部屋作りをしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の居室前には、その方の写真を貼り、自室であることが認識できるようにするなど各生活空間がわかりやすいように表示し、一人で行動できるように工夫している	利用者の居室前には、その方の写真を貼り、自室であることが認識できるようにするなど各生活空間がわかりやすいように表示し、一人で行動できるように工夫している		